

学校における児童の居場所づくりに関する研究

—道徳の時間を要として、心の充実感をはぐくむ取組を通して—

M13EP004

川野 和昭

1. はじめに

昨年度、道徳の時間を要とし、児童の心の充実感（日々の生活が楽しく、精神的に安心して生活ができ、他者からも大切にされている）をはぐくむ取組を学校の教育活動全体を通して行うことが児童の「居場所づくり」につながるのではないかと考え、大学や実習校で研究を進めてきた。その中でどのようなものが有効なのかについて様々な知見を得ることができた（川野、2013）。実習校での取組は、児童や保護者に直接関わる学級担任として、実践したいという思いを強くする機会となった。そこで、今年度は、現任校に戻り、担任と研究主任という立場で実践し、その有効性を探ることとした。

2. 先行研究

教育再生実行会議による「いじめ問題等への対応について（2013）」では、「子どもが命の尊さを知り、自己肯定感を高め、他者への理解や思いやり、規範意識、自主性や責任感などの人間性・社会性を育むようにする」とあり、いじめのない環境づくりと道徳教育の充実について述べている。それを受けて道徳教育の充実に関する懇談会「今後の道徳教育の改善・充実方策について（報告）（2013）」、最新の中央教育審議会「道徳に係る教育課程の改善等について（答申）（2014）」では、「特別の教科・道徳（仮称）として教育課程に位置づける」「道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通して行うという道徳教育の基本的な考え方は適切なものであり、今後も引き継ぐべき」とあり、道徳の時間のさらなる充実と各教科等との密接な連携を強化す

る必要性が示された。このことは、筆者の研究内容と重なるところが大きい。

3. 研究の目的

A 小学校5年生 29名の学級担任として児童の居場所づくりの方策としてどのようなことが考えられるのか検討し、道徳の時間を要として児童の心の充実感をはぐくむ取組を実施する。その結果、どのような取組が有効なのか検証することを目的とする。

4. 研究の方法と内容

(1) 学級における取組

- ①総合単元的な道徳学習の考え方を取り入れた道徳年間指導計画の作成
 - ・道徳年間指導計画を見直し、作成する。
- ②アンケートとQ-Uテストの実施と分析
 - ・児童の理解、現状把握のために2回のアンケートを行う。1回目は、分析して道徳学習プラン作成のための資料とする。Q-Uテストも実施する。
- ③道徳の内容項目と各教科との連携を示した道徳学習プランの作成と実施
 - ・②を分析し、学校・学年課題をふまえ、重点として取り組む必要のある道徳の内容項目を3つ選ぶ。それらに関連する各教科等の学習内容を位置付けた計画を作成し、実施・検証する。（以下この計画を道徳学習プランと記述）
- ④道徳の授業の工夫
 - ・心のカードの使用、学習ノートの工夫、親子道徳の実施など、工夫した道徳の授業を行う。
- ⑤個人ノートによる関係づくり

- ・教師と児童一人一人をつなげるツールとして「個人ノート」を導入し、教師と児童との良好な関係づくりにつなげる。

⑥教室掲示の工夫

- ・壁面に道徳の授業の中で取り上げた大切な言葉などを授業後に掲示する。

(2) 保護者と行う取組

①親子道徳の実施

- ・重点として選んだ内容項目の道徳の授業後資料を家庭に持ち帰り親子で話し合う取組を行う。

②授業公開の実施

- ・保護者に道徳の授業を公開する。

(3) 学校全体としての組織的な取組

①年間指導計画の改善

- ・道徳年間指導計画を改善する。

②授業参観と道徳の指導の充実

- ・道徳の授業を教師相互で参観しあい指導の充実をはかる。

5. 研究の結果と考察

(1) 学級における取組

①総合単元的な道徳学習の考え方を取り入れた道徳年間指導計画の作成

先行研究で述べたように道徳教育推進のためには、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通して行うという基本的な考え方がある。そこで、A小学校の年間指導計画に各

教科やそれぞれの内容項目に関わる教育活動を結びつけ、新たに導入された「わたしたちの道徳」とも関連をはかる中で表1のような5年生分の道徳年間指導計画を別案として作成した。特に、留意した点は、「わたしたちの道徳」の読み物教材は5、6年生で全て網羅する、A小学校の特色ある行事（敬老の日の手紙、ころ柿集会、地域の方々との交流集会など）と関連付ける、市の教育目標や学校の教育目標を意識する、道徳性を構成する諸様相である心情、判断力、態度のバランスを意識することである。

一例を上げると、4月の児童会活動にあいさつ運動がある。それにあわせて4月に礼儀に関する道徳の授業を計画した。取組期間中に任意で協力したい児童は児童会役員と一緒に玄関であいさつをするのだが、5年生の参加が多く見られるようになった。また、1月には、地域の方から「A小学校の子どもさんが何人もあいさつをしてくれて感動した」とのお手紙もあった。このように、道徳の時間と各教科等の連携を意識させることが児童のよりよい行為に結びつく一助になっていったように感じられた。

②アンケートとQ-Uテストの実施と分析

児童の実態を把握するために、昨年度使用したアンケートに加え、Q-Uテストを実施し、実態の把握に努めた。アンケートは、4つの選

表1 5年生、道徳年間指導計画の一部

月	指導要領との関連	※本校は、学研の副読本を主に計画 指導のねらい 主な発問例	資料(出典)	資料類型	私たちの道徳との関連	他教科等との関連
4	1-(3) 自由・規律	<ul style="list-style-type: none"> ・自由の大切さを知り、自由を尊重し規律ある行動をしようとする。 ○ガリユーンはなぜ、「だれであろうとゆるせません。」と言ったのか。 ○牢屋に入れられたジェラルムは、どんなことを考えたか。 ●自分勝手なことをする自分と、がまんする自分とを、心の中で比べてみよう。 	うばわれた自由 (わたしたちの道徳)	物語	自立的で責任ある行動を P28 教材「うばわれた自由」	・学級活動(学級朝会)
	2-(1) 礼儀	<ul style="list-style-type: none"> ・その場に応じた言葉を使い、気持ちのよいあいさつができるような心構えを育てる。 ●「こわばった空気を和らげてくれる」という話を、どう聞いているか。 ○あいさつは「心を開くひみつかぎみたい。」とはどういうことか。 ○あいさつをして、応答の有無によって感じる気持ちとを、比べてみよう。 	22 よいあいさつが、よい出会いをつくる (学研)	生活分	礼儀正しくまごころをもって P56	・児童会活動(あいさつ運動) ・学級活動(クラスの目標・決まり)
5	1-(5) 創意・進取	<ul style="list-style-type: none"> ・真理を求めて、工夫を凝らし、よりよい生活を築いていこうとする態度を育てる。 ○深い悲しみにしずむ母親とひろしの様子を見て、神谷さんはどんな思いだったか。 ○船強会と看護を続けても変化が現れなかった時、神谷さんはどんなことを考えたか。 ●神谷さんは、これまでに例のない新しい看護にどんな考えから取り組み始めたのか。 ○なみだを流すひろしと母親を眺めながら、神谷さんはどんなことを考えていたか。 	18 君の声が聞きたい (学研)	物語	進んで新しい物を求めて P42 教材「天からの手紙」	・図画工作(板を切り抜いて) ・児童会活動(生活目標への取組)
	4-(1) 公德心、規則の尊重、権利・義務	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に生きる人として守らなければならない決まりについて考え大切に気づく。 ○みんなが校庭遊びの決まりを守らなくなったのはどんな考えからか。 ●みんなはどんな思いで「きまり」について話しあったのか。 ○決まりを守ることの大切さについて考えを書きましよう。 	きまりは何のために (わたしたちの道徳)	物語	法やきまりをまもって P118 資料「その思いを受け継いで」	・校外学習(東京旅行・国会見学) ・児童会活動(生活目標の取組)

択肢から選び、1が肯定的、4が否定的という形にした。よって、集計では、数値が低いほど児童の満足度が高いということになる。実態を見ることに加え、それを基に道徳の内容項目の中から重点となる項目を選定する参考にし、児童の心の充実感の変化を見る資料としても用いた。担任となりすぐにアンケートを行うことにより個々や全体の良い面や課題を知り、それを学級経営に生かすこともできた。4月と12月の比較も行った。数値は、表2のとおりである。

表2・アンケートの結果

学校運営	学校が楽しい	みんなが何かするのは楽しい	次の学年も今のクラスでいた	授業がよくわかる	自慢できるものがある。	周囲のサポート	周囲の人が頼ましてくれる。	先生が励ましてくれる。	友達が励ましてくれる。	周囲のサポート	周囲の人が頼ましてくれる。	先生が悩みをきいてくれる	友達が悩みをきいてくれる									
					1.50	1.36								1.50	1.43	1.96	1.36	1.36	1.68	1.18	1.39	1.71
					4月	12月								4月	12月	4月	12月	4月	12月	4月	12月	

周囲のサポート	おうちの人がわかっていく。	先生がわかるうとしてくれる	友達がわかるうとしてくれる	友達がわかっていく。	友達の考えを聞きながら進んで発表している	友達の意見を聞き入れようとする	友達の考えを聞きながら進んで発表している	自己有用感	友達に喜んでもらえた	友達に感謝された	友達の役に立った	友達が楽しんでいる	道徳の時間が楽しい										
														1.43	1.39	1.71	1.82	2.04	1.89	1.82	2.04	1.89	1.82
														4月	12月	4月	12月	4月	12月	4月	12月	4月	12月

1が最も肯定的、4が最も否定的、数値はクラス平均である。平均値が低いほど肯定的である。

その中で、筆者が気になった項目は、表2の網掛けの友達に関する児童相互の関係性と自慢できるものがあるという項目であった。さ

らに、Q-Uテストでは、学校生活に満足していない児童が多い傾向と学級の規律に問題があることもわかった。そこで、児童に特にはぐくませたい道徳の内容項目として、1-(6)向上心、2-(2)思いやり、4-(1)公徳心を重点とした道徳学習プランづくりを行った。早い時期でのアンケートは、児童の実態を知ることとても有効であった。

③道徳の内容項目と各教科との連携を示した道徳学習プランの作成と実施

②で選んだ内容項目と関わるA小学校の学習活動を洗い出し、3種類の道徳学習プランの作成をした。今年、特設の項目として「学校教育目標」と「教師の思い」の2項目を追加して指導の意識化を試みた。

第5学年 道徳学習プラン（公徳心、規則の尊重、権利・義務）

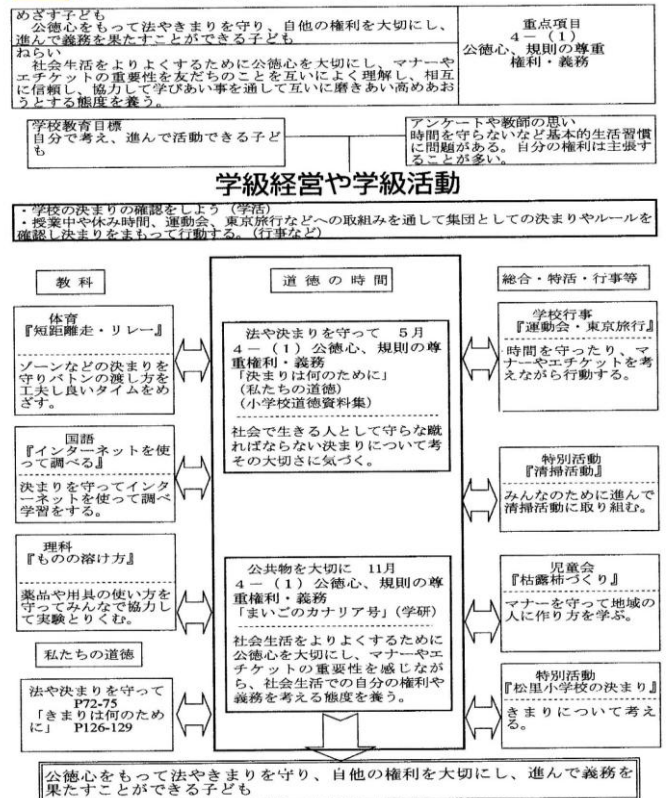


図1 道徳学習プランの例

例えば、5月にA小学校では国会見学や班別学習を体験する東京旅行がある。その事前学習指導で時間や決まりを守る事を確認した。同じ時期に国会のことが取り上げられている

「決まりはなんのために」という読み物資料を使った道徳の授業を行った。この学習が役立ったからか、年度初めに気になった時間や決まりを守らない姿はなく、当日は全部の班が時間通り集合することができた。学級活動と連携させることの効果を感じる一面でもあった。また、後述の図4にあるように児童が意識して活動した様子も見られ、それ以降の学校生活の中でも時間を守り、決まりを守る児童の姿をよく目にすることができた。①の年間指導計画と同様に日々の見直しを行いよりよいプランにしていくことが大切である。

④道徳の授業の工夫

児童の心の充実感をはぐくむためには、要とする道徳の授業の充実が不可欠である。昨年度の実践や学習指導要領の「道徳の時間に生かす指導方法の工夫」をふまえて授業において次の取組を意識して行った。紙面の関係上すべてを記載することはできないが主なものを紹介する。

表3 道徳の指導方法の工夫

道徳の時間に生かす指導方法の工夫	内容	具休例
(1)資料を提示する工夫	PCによる導入 劇化	7TMの1968年と最新版の比較のように映像を利用するなど意欲を高める工夫を行う 低学年で実際の電車の音を使用し劇化するなど身近な物とさせる。
(2)発問の工夫	発問の軽重 児童自ら課題を見つける	内容を読み取る発問は簡単に、児童に考えさせる発問は時間をとる 資料を読み児童に話し合いたい内容を考えさせる
(3)話し合いの工夫	グループの活用 心のカードの使用	隣同士、班、心のカードの同じグループでの話し合いをおこない考えを深めさせる 2色のカードを使い自分の考えを周囲に伝えるたり、わかりやすくさせる
(4)書く活動の工夫	ノート 自分の意見大切に	ノートに資料の中での問いと自分の生活に返る2つの問いを書かせる 最後に自分の意見をもてたかを書かせる
(5)表現活動の工夫	実際にやってみる 心のカードの使用	手品師で手品が得意な児童にやらせてみるなど体験をさせる 心のカードを使いながら自分の微妙な意見も伝える
(6)板書を生かす工夫	板書の構造化	心の広がりによって色を変えたり、下から上へ、スパイラルなどの板書の工夫を行う
(7)説話の工夫	道徳コーナーの設置	主人公や徳目の内容にあった先人たちの言葉を掲示し、意識の継続をはかる。

1) 心のカードの使用

2色のカードを用意し、児童が自分の考えを表現するためのツールを「心のカード」として使用した。例えば、葛藤場面において、相対する2つの考えがあるときなどにこのカードを介して自分の考えを語れるようにし、数多くの授業で活用した。児童は、自分の思

いでカードを重ねあわせるため、重なるの少ない方の考えも意図的に聞くことで多様な考えを引き出すことができた。机の上に置いたカードを見て児童が他の児童に理由を聞く場面もあり、視覚に訴えながらねらいとする価値を深めることもできた。



図2 心のカードを使って

2) ノートの工夫

今年の学習ノートは、資料を通してねらいとする道徳的価値を考えて記述する枠とねらいとする価値をより深く自分との関わりの中で見つめる枠の2部構成を基本とした。

実際の児童Aの様子を見てみよう。児童Aは4月のアンケートやQ-Uテストの結果を見ると気になる児童の一人であった。体調面、友人関係、家庭学習に課題も見られた。図3の5月の学習ノートを見ると自分なりの記述はあるが、自分の考えがもてなかった欄に○が付くことも気がかりであり、支援が必要とも感じた。道徳の授業では意図的に発言させるような指導も試みた。図3の6月に入ると自分の考えがもてるようになり自分の思いを素直に書いていた。図3の9月では他人を思いやる気持ちが育ってきた様子や図3の10月では、自分の改善点である勉強に対しての記述が見られ、宿題は必ずやってくるなど家庭学習面の成長が見られた。12月のアンケートやQ-Uテストでも改善の傾向が見られ、道徳の授業では必ず数回は発言し、友達や下級生とも休み時間にふれあえるようになるなど生き生きと学校生活を送る様子が見られるようになった。筆者は、この児童に関する声かけや意識的な指導で活躍できる場を設定

○今日の話を今までの自分を振り返ってつと、よい出会いをつくるために」でき
えましょう。 5月

かそくとちいきの人と友た"ちにあい
さつをする。
ともたちにかえをかける。

自分の考えが書けているが、下段の評価はもてなかつた
たになっている。

○自分の考えをもてましたか。
もてた すこしもてた あまりもてなかった もて³った

○人を内心ばかにしていたのに、気づい
同じだったり、逆にすごいと思ったこ
かきましょう。 6月

いっしょうけんめいやっている人をバカにしてい
ると自分もバカにされているのと同じだ。
友た"ちをた"いし"にしているクラスは、いい
と思った。

○自分の考えをもてましたか。
も³た すこしもてた あまりもてなかった もてなかつた

もてたに変わり自信にもなった。

○あなたがこれからできることややりたいこと
書いてみましょう。 9月

これからはほかの人のやくた"つことや
かんきょうにやさしい人になりたいと思
います。

自分のことから他人を思いやる気持ちが育
ってきている。

○自分の考えをもてましたか。
も³た すこしもてた あまりもてなかった もてなかつた

○4月から自分がこんなところができるようになったとか自分のこんな良い所が見つ
かつたことを書いてみましょう。 10月

もっと勉強をがんばることがたいせつ"と思
って勉強をがんばったと思います

自分の課題を見つけている。

○自分の考えをもてましたか。
も³た すこしもてた あまりもてなかった もてなかつた

図3 児童Aの学習ノートの記述（5月～10月）

○あなたが伝えた思いやりや、受け止めた思いやり
を書いてみましょう。

昔弟が入院していた時お母さんがつき
きりで弟にそばにいた。お母さんもぼとつか
れていて少しでも元気になれるよう声
をかけた。

○お父さんの思いに答えるために大切なことは何だ
ろう。

たとえどろまおれになっても、ちゃんとめ
んどくさらず返して自電車に感言射を
てあげれば、いいとおもう。

図4 他の児童の記述

して、この児童のよさを引き出すことに努めた。また、児童A以外の例として図4のように他の児童の記述にも決まりについて建設的な考えを記述するような質的な向上が見られた。学習ノートの記述は、児童のよさを見取り、次のよりよい行為に結びつける評価の手だてとしても役立った。

3) 板書の構造化

板書は、一般的には黒板の右から左に書くパターンが多いが、配置や方向、児童の発言の高まりに連れてチョークの色を変えるなどの工夫を行った。一時間の授業を振り返ったときに板書を見れば授業内容と児童の発言の高まりがわかるような構造化された板書を心がけた。児童はノートのねらいとする道徳的価値と自分との関わりを考えて記述する場面で板書を参考にしながら自己を振り返ったように思われる。板書の写真を撮り、道徳コーナーやノートの裏面に張るなどの工夫を行えば更に有効であった。今後の授業改善としてTTで一人が板書し、一人が授業を進めるスタイルも試してみたい。



図5 板書の例

⑤個人ノートによる関係づくり

月2回、児童とノートによる情報交換をした。自分の趣味を書いてきた児童や班決めなどの方法に不満をもつ児童からの思いが寄せられ、その後の生徒指導に生かすことができた。児童と教師の信頼関係を高める一つのツールになっていた。

⑥教室掲示の工夫

教室の壁に道徳広場を設置し、道徳の授業の中での先人の言葉やわたしたちの道徳の中の大切な言葉、前の授業の板書を掲示した。折に触れて児童と話題にすることで実践への意欲化を図ることができた。

(2) 保護者と行う取組

①親子道徳の実施

学習指導要領でも保護者や地域との連携を図ることが示されている。今年担任なので保護者との人間関係の構築や情報交換もしやすい。そこで、重点として選んだ内容項目の授業後に親子でその教材を読み、感想を書く「親子道徳」を取り入れた。親子で道徳について学ぶ機会を通して家庭と課題の共有と連携協力を図った。図6ように児童と意見が同じだったことに喜びを感じている姿や親子で同じ資料を読むことを前向きに良い機会と捉えてくれている姿も見られた。家庭に道徳教育の理解を深め、連携する一つの方策としての役割は果たしていたように思われる。さらに、学校全体で取り組めれば理想的である。

親子道徳の感想をお願いします。

普段親子で本の感想は話し合う機会が無く、良かったと思ったり、いい時に親子道徳を採り入れたらいいな、と感じたりしていました。

親子道徳の感想をお願いします。

5年生という時期が、少し大人になりつつあり、自分で考えたりする気持ちが強くなっている時期、様々な気持がある中で、そういう時に道徳という、心の勉強をするのは、本人にとってもプラスになる事だと思う。

親子道徳 学習カード

9/19
名前 ()

藤原女医さんを読んで

(児童) 今まで山梨県に住んでいたのに、小井川村という場所があって、そこには医者さんがたくさんいて知り合っていた。でも女医さんが来たおかげで、村人達も安心して過ごせるようになったと思います。私も女医さんみたいに、自分の事より他の事を優先できるようにいい人になりたいです。

(保護者) この話に出てくる女医さんは、自分の体を大切にしながら、村人を第一考える強い人間だと思いました。私も村人達からも大切に思われ、信頼関係が育まれているように思います。娘にも女医さんのように、自分のことだけではない、他人のことを考えられ、友達と信頼関係を築き、開けていくことが出来るような人間になってほしいと思います。

○感想等なんでも

親子で同じ本を読んだのですが、同じような考えを持っている事がわかると同時に娘の考えている事もわかる事ができたのでとてもよい取り組みだと思いました。普段同じ本を読むという事がないので、この様な機会を持ち、一つの事について考えて互いの意見を交換することにより娘が今どのような事まで理解しているのかわかる事ができたのでよかったです。

図6 保護者の感想と親子道徳の記述

②授業参観の実施

授業参観で道徳の授業を公開し、その後の学年部会で指導のねらいを話題にすることによって保護者への啓発を図った。今後、全校での取組につなげていきたい。

(3) 学校全体としての組織的な取組

①年間指導計画の改善

学校全体の取組として5-(1)-①の書式に基づき、改善した年間指導計画を作成中である。道徳教育の考え方を職場全体に広げる一つのきっかけになった。

②授業参観と道徳の指導の充実

研究主任として校内研で道徳の研究授業や学習会を行うなど先生方の道徳の授業力向上に向けての取組を行った。職員室の話題になったことは嬉しい出来事であった。

6. 成果と課題

児童の変容の一例として児童Bの様子を見てみたい。児童Bは、自己中心的な面があり、

児童Bの様子	表4・児童Bへのはたらきかけ	
場面	Bさんの様子	教師の評価・はたらきかけ
4月	対話を心がけ、しかるのではなく元気であるが休み時間に行事があると文句をいったり、授業が延びると怒り出した。上級生とのトラブルも多かった。成績は、とても良い。ゲームが大好きである。	家庭は学校に対してとても協力的である。対話を心がけた。
4月下旬	友だちけんかをしてトラブルになった。	時間を置いて指導に当たった
5月道徳	自分の意見をいつも述べている。ただ、記述などめんどくさいことは書かないことが多い。	隣でみてはげますとたくさん書いている。
5月Q-リテスト	満足群に属し、肯定感が高い	周囲への満足度が低い。
6月	友達がとても気を遣って接している様子が見られた。友だちと一緒にわがままを言う姿が見られた。	友達に普通に接するおようと話をした。良いことは褒め、悪いことは無言で答えるようにさせた。
6月委員会活動	よく仕事をすると褒められた。	そうじや仕事をよくやるので賞賛した。
運動会への取組	組み立て体操で自分から進んで土台をやると言ったり、友だちを思いやる記述が見られた。	体育はとてもいやがっていたのに無理をしないように担任が止めるほどであった。
10月	自分から市の有志の陸上教室に申し込んだ。	みんなに「男子の意地を見せよう」と張り切っていた。
10月懇談	保護者から授業参観を安心してみられると感謝された。	指導教員も記述や様子から周囲とのコミュニケーションが取れてきたとの評価
11月巡回相談	参観でも意見を言い、友だちとトラブルもなく話していた。	SCも周囲とのコミュニケーションが取れてきたとの評価をいただいた。
11月Q-リテスト	変わらず満足群に属している。	周囲への満足度も改善が見られた。
12月アンケート	良い方に数値の変化が見られた。	児童会長への立候補を考えるなど全体のことも見られるようになってきた。
保護者アンケート	安心して見られるようになったとの温かいお言葉をいただいた	保護者も成長を感じている。

友達や上級生や教師とのトラブルも多く、支援が必要だと引き継ぎを受けた。ゲームが好きなのでその話題を中心に対話する中で児童との人間関係をつくり、頭ごなしに指導するのではなく対話を心がけた。また、学級の取組として友達のよいところを認め、賞賛することの大切さを話し、児童Bが周囲から認められるように努めた。6月に委員会活動で係の仕事をひたむきにがんばる姿を友達や教師に認められ賞賛されたことが一つのきっかけになり友人関係のトラブルも減っていった。9月には苦手な体育行事の運動会があった。学習プランの重点の一つである「思いやり」を意識させて組み立て体操などに取り組ませた。図7の記述にもあるように、今までの自分本位な思いを自己分析し、友達を思いやる記述が見られるなど心の成長した様子がうかがえた。他の記述を見ても本人が思いやりの心を意識して向上心を持ち、自分のよいところは伸ばし、悪い所は直そうと一年間を通して意識してきた様子が書かれている。担任の観察でも、授業中に優しく友達に勉強を教え、友達や教師に素直にありがとうと感謝の気持

・運動会で思いやりの心を持ち、相手の立場になって親切にしましたが。

(今まで)自分が成功すれば人のことはどうでもいい、赤が勝てれば白が勝てるとも思っていた。

自分本位と思われる記述

(今年)組み立て体操を通して、土台になった人が痛むかなんかを思いやっていた。

他人を思いやる記述

だれにたいしても思いやりの心を持ち相手の立場に立って親切にやる。

(一年間を振り返って)相手の立場は大七かなので、相手を不快にさせないようにやってきました。また、思いやりの心は、大人になっても大切なので、ここでも意識し一年を過ごしてきました。

(自分が一年間で成長したことを自由になんでも)気が小さい性格だったから、少しの事なら言わずに済むようになりました。

図7 児童Bの記述

ちを伝え、みんなの輪の中心で楽しそうにしている様子が見られた。この成長については図8にあるように保護者も感じており、親子道徳などの家庭との連携も心の充実感に相乗効果をもたらしているように思う。

・今までと比べて児童が今年成長したところを書いて下さい。

(今まで)
思はずとすぐ口を出して、先生や上級生とのトラブルが頻りに。

(今年)
思はずとすぐ口に出さず、自分も、友達の、良、睡の、区別が、これ名乗る方に、おれ、と思う。

図8 児童Bの保護者の記述

児童B以外にも保護者から「授業時間の集中が素晴らしい」「自然と拍手が起こっていいですね」などの言葉や図9のような道徳に関する感想や「児童が伸び伸びと生活している」という声も聞かれた。同僚からも「児童がとても成長したね」というその時の具体

・その他、何でも気づいたことをお願いします。

道徳という授業を通して、物の考え方は、ひとつではない。色々あるというおな、柔軟な考え方をもちば、これから生活していく中で、とても力になると思う。気持ちの安定が様々な能力を生み出すために一番大事だと思う。

・その他、何でも気づいたことをお願いします。

今まで誰かの指示に従うという感じだったけど、今では、自分(と人)皆のお手本に立っているように、成長にびっくりです。失敗してもいいんだ!と気がついたんです。これからの成長も楽しみです。

図9 保護者のアンケートから

(自分が一年間で成長したことを自由になんでも)
 一つは人へのおもいや、二つは人の立場になり、親切に接す。三つどうしたら人に喜ばれるかについて少しはできたと思う。四つ本などたくさん読んで物知りになった(けいこくも)

図10 児童の一年間を振り返りかえっての記述

例を交えての話を書くこともできた。前述の表2に示したように、年度当初のアンケートやQ-Uテストの結果では、児童の心の充実感という面ではやや心配であった。その後の道徳の時間や各教科等と連携した地道な取組を行った結果、数値面で12月のアンケートやQ-Uテストの結果に改善が見られるようになった。図10や今までの児童一人一人の様々な記述や様子、保護者の評価、同僚の評価、筆者の手応え、アンケート、Q-Uテストの数値面の変化をみると道徳の時間を要として児童の心の充実感をはぐくむ4・(1)~(3)にある一連の取組を地道に続けることが、児童にとってよい居場所づくりにつながっていったのではないかと考えられる。学級担任として児童との人間関係を基盤に学級づくりを行い、研究主任として道徳教育の充実について先生方に理解を求める活動が功を奏しているよう

にも感じた。学級が、児童たちの心地よい居場所であるようにするためにこの一連の取組を今後も継続して、その有効性や効果について実践を重ねることが必要である。

7. おわりに

この研究のまとめの時期となった平成27年2月4日に、文部科学省から「特別の教科 道徳」に関する学習指導要領改正案が示された。その記述を見ても、道徳教育の重要性はますます高まっていることが窺える。筆者は現行の学習指導要領解説・道徳編の評価の部分に示された「自己のよりよい生き方を求めていく努力を評価し、勇気づける」ことを目指して本研究報告書に示した取組を実施し児童の居場所づくりにつながる学級づくりに努めてきた。実践の結果、確たる、手応えも感じる事ができた。この2年間の研究で実感した道徳教育の力を基盤に、今後ますますその重要性が高まる道徳教育に関する実践を行い、児童の指導に生かしていきたい。

(引用・参考文献)

- ・中央教育審議会(2014)「道徳に係わる教育課程の改善等について」
- ・道徳教育の充実に関する懇談会(2013)「今後の道徳教育の改善・充実方策について」
- ・川野和昭(2013)「学校における居場所づくりの研究」山梨大学大学院教育実践研究報告書
- ・国立教育研究所(2010)「児童の問題事象の未然防止に向けた生徒指導の取り組み方」
- ・教育再生実行会議(2013)「いじめの問題等への対応について」
- ・文部科学省(1992)「登校拒否問題への対応について」
- ・文部科学省(2008)「小学校学習指導要領解説 道徳編」
- ・文部科学省(2008)「小学校学習指導要領解説特別活動」
- ・文部科学省(2010)「生徒指導提要」
- ・押谷由夫(1995)「総合単元的道徳学習の提唱」文溪堂
- ・押谷由夫・内藤俊史(2012)「道徳教育への招待」ミネルヴァ書房
- ・押谷由夫(2014)「道徳の時代をつくる」教育出版